

日本のどこかで

校 長 武井 正明

初めて中学校長会の全国大会に参加させていただいたのは2年前の大分県別府市。
新任校長2年目。全国から集まった2000人近くの先輩校長の面々に圧倒され、俺もやらねば、と思った。
日本は広い。様々な方言が飛び交い、熱い意見交換があつという間に終わった。

幸運にも今年、またもその機会に恵まれた。舞台は香川県高松市。
城と緑と海と太陽、そして路面電車…。空と海の境目がない街、高松。
新潟とは異なる、三角おむすびの様な小島が幾つも並ぶ。すぐ近くには平家物語「扇の
的」の舞台となった屋島がある。港に横付けの舟、さざ波に揺れる、深い碧の海。かすかに潮の香りがする。冬はきっと、暖かくてすごしやすい、穏やかな毎日なのだろう。

楽しみにしていたのは分科会のグループ協議会。
今年は高知、沖縄、山形、島根の方々と一緒のテーブルとなった。
山形の校長先生からは「燕市、というと、ラーメンですよ」僅かに目の奥が光る。そう、山形と新潟はラーメンのライバル同士。「そうなんですよ。背脂で全国からひっきりなしにお客さんが来て大変ですわ」…店主みたいな口ぶりでつい張り合ってしまった。
高知の女性の校長先生からは「熊、大丈夫ですか？」と訊かれました。連日のニュースの影響は、やはり大きいようです。

話題は、防災教育と部活動の地域展開化について。
防災教育は、地域が違うところも違うものか。先週私が不在の間、吉中で行われた避難訓練は、不審者の侵入への対応だった。高知では、津波に対する避難訓練を年6回行っていると聞いて驚いた。それでも目標は8回なのだという。南海トラフ地震は、東日本の私たちより、ずっと現実味を帯びて直面している大問題なのだと実感した。
部活動の地域展開化は、地方に行けば行くほど難しいのは、全国どこも一緒のようだ。部活指導員に限らず、人手不足の現状は全国各地で苦慮しているのがわかった。

全体会では、文科省からの日本教育最新の情報を得た。お互いの悩みや考えを共有し、日本中に同志がこんなにもいるのだと思うと、心強く、決意も新たといった心境になりました。
香川県のプライド「うどん」も5回堪能しました。（朝6時からやっているところもあります。午後2時には閉まります）本当に中身の濃い時間を過ごさせていただきました。

今日からの吉田中学校の子どもたちに還元していくつもりです。